

山口七夕会通信

VOL.39

2022年

1月28日

発行：山口市七夕会事務局
(山口市企画経営課内)
山口市亀山町2番1号
TEL：083-934-2746

今年



揮毫 山本直和(坦蕩)さん
(山口七夕ふるさと大使・会員 No. 79)

～さらに山口市を知ろう！～



新型コロナがなかなか落ち着きを見せません。ただ昨年秋、一時安定していた10月9日に年次総会を幸運にも開催することが出来ました。しかしコロナの新種が登場し日本ばかりか世界ではまだ、感染拡大が続いている国や地域もあり安心はできません。しばらくは懇親会等の開催も注意を払いながら行う必要があります。その為には、オンラインでの情報提供や講演等を利用しますが、こうしたコロナ禍で始まったオンラインと言う工夫を更に活用し、遠方の講師のお話を伺うなど新しい会議のあり方を模索して行きたいと思えます。

山口七夕会は室町時代から伝わる「山口七夕ちょうちんまつり」をルーツとしています。会則に「ふるさと山口市の発展に寄与する」と謳い、首都圏の会員と地元山口の会員との相互交流を深めることを大切に行きたいと考えています。山口市を離れ首都圏で生活する会員にとって、故郷山口市はとても懐かしい場所です。「故郷の訛(なまり)懐かし・・・」ではありませんが、山口市の言葉や風物、チョットした文物を思い出すことは心を豊かにしてくれます。子供の頃に育った町とはいえ、自分が住んでいた地区、通学していた小・中学校の場所のこと以外の情報には明るくないものです。首都圏会員の皆さんがお互いに覚えている情報を交換するのも懐かしい気持ちになるかもしれません。

一方、現在の山口市の情報も首都圏で生活している会員には大切です。里帰りで実家に戻っても、その近くで見てきたもの以外の情報にはなかなか触れることが出来ません。山口市在住の会員の皆さんから「現在の山口市」を教えて頂くのも新しい交流になるものと思えます。山口市に関する大げさではないけれども「気になる出来事」をこの機関誌を通じて紹介して頂ければと考えています。例えば季節の便りも面白いと思えます。もともと山口市は冬が厳しく、雪もよく降りましたが、現在では雪も少なくなった様です。しかし今年はそれと違い「ブチ寒かった」と言ったことをお知らせ頂くのも楽しいかも知れません。

この様に色々な事柄の紹介を互いに交わしていく中で、その背景になる山口市の歴史にも理解を深めて行きたいと思えます。歴史を含めた山口市への理解が深まれば、故郷山口市の今後の発展に寄与する為には何が足りないか、更に魅力的にするにはどうすればよいか等の参考になるかも知れません。年3回の機関誌。季節の便りと共に首都圏在住の会員と地元山口の会員相互から故郷を思う気持ち・事柄を発信していく機会にし、新型コロナを克服すべく皆さんで頑張りましょう！

令和四年(2022年)1月

山口七夕会会長

秋草 史幸

< 目 次 >

- 頁1 表紙
- 頁2 秋草会長挨拶
- 頁3 目次/表紙の言葉
- 頁4 【巻頭言】「山口の能 ～よもやま話～」(岡本浩次さん)
- 頁5 【連載コラム】 山口市内の面白名所発掘 6
「山口中央高校校庭に不時着した坂本壽一」(古谷眞之助さん)
- 頁6～7 【報告】2021 年ふるさと山口本部・秋の講演会(嘉瀬修さん)
- 頁8 【各地の会員便り】「関西で感じる『ふるさとの風』」(村中正司さん)
- 頁9 【リレーコラム】ふるふるさとの味めぐり「おかき」(久家菊美さん)
- 頁 10 新入会員から一言/新入会員の皆さん
- 頁 11 【寄稿】「レノファ山口観戦記と二つのふるさと」(奥原保さん)
- 頁 12～13 【寄稿】「おさるさん」と「おうまさん」(渡邊史信さん)
- 頁 14 【報告】親睦ゴルフ“第 4 回八木重二郎杯”レポート(藤井謙志さん)
- 頁 15 【報告】本部役員異動のご案内
- 頁 16 新旧本部長ご挨拶
- 頁 17 【事務局より】原稿募集、会員募集
- 頁 18 【事務局より】イベント案内、編集後記、事務局より

< 表紙の言葉 >

収束しないコロナ禍。七夕会も様々な影響を受けています。その七夕会を支えるのは会員相互の絆です。その固い絆がいつまでも続いてほしいとの願いを込め、年初の七夕会通信の表紙の文字に「絆」を選びました。揮毫いただいた山本会員に心より感謝申し上げます。(編集長)

山口の能 ～よもやま話～

岡本 浩次（会員No.36）

山口七夕会の総会がコロナ禍のため10月9日ようやく開催されました。懇親会となり、謡と仕舞を披露して同好の方はおられないかと、恥かしながら「老松」をやりました。これが縁かお一人謡をやってみたくて言われた方と、もう一方能を観てみたいと言われた方がありました。観能のご希望は丁度10月23日国立能楽堂で世阿弥作品の敦盛の公演を紹介しましたところ、奥様、お嬢様と観られました。この二つのこと大変うれしいことでした。能の公演には、狂言が加わりますが、当日は90才の野村万作、萬斎、祐基と父子三代の出演は伝統文化の継承の姿でした。近頃の嬉しいことでしたのではじめに申します。

山口の能と言いますと、大内氏のこと



れざるを得ません。特に最後の領主義隆公は、能三昧が過ぎ、戦乱時氏族の前途を危うんだ同族の武将陶晴賢に討たれました。配下の安芸吉田、毛利元就の仇討ちにより、陶は滅び元就が大内氏の跡を占めました。元就の子、隆元は少年時、山口大内館に住まわれ、能の日々であったようです。現代の山口に徳川幕府が創設した喜多流が広まっているのは毛利家が採用されたからだと思います。能を幕府が武家の必修とし能楽者を武士にして、扶持を与えていたのです。これにより、江戸幕府の政治用語は統一され、戊辰戦争時、官軍の会津での物資調達に言葉が通じたそうです。山口に今日まで継承された鷺流狂言が明治の初め、武家の家禄を失った家元が断絶され、鷺流は能界から廃されたのです。しかし、その狂言を戦後の間もない頃、山口に明治時代からの伝承者があったことを知られた方の一人が元山中、山口高女の国語教師（s17年～23年10月）石川弥一先生です。山口女専、県立大の教授時代に鷺流狂言の研究をされたということです。その後も関係者のご尽力により、昭和29年に山口鷺流狂言保存会の結成をみたのです。わが国の鷺流狂

言はあと佐賀と佐渡島に保存されているとのこと。

山口七夕会の創設後の平成12年10月に国立能楽堂で三地方に保存された鷺流狂言の発表公演されることを会報で知りました。公演に行き、県指定無形文化財としてご活躍の米本文明さんを知りました。この折、山口七夕会に入っていてよかったと思ったことでした。奇縁と申しますか、文明さんの父上は私の小学校、中学校の同期でした。小学6年生の時学芸会で「安宅」（頼朝に追われる義経が安宅関で捉われそうになる能劇）をやり、米本君が弁慶の主役で、私は弁慶に薙刀で叩かれる義経でした。戦争で兄貴二人を失い末弟の彼が、下小鯖の奥山地の1町歩余りの山田と広大な山林主として家督相続しました。この地で育てられた文明さん（山高79期）が高知大学に進学された時『学校はどうしてもよいから、よい嫁さんを探して来いと言うたら、土佐の真ん中から一人娘を連れて帰ってきた。これは三国一ならぬ四国一の花嫁で、今も皆で仲良く暮らしている。』と70歳前の同期会の文集に書いています。花嫁さんと文明さんのご長男が太郎さんです。太郎さんは幼少の頃からお父さんの狂言の稽古を体感しておられたと思います。東京上野の芸大能楽科を卒業され、観世流能楽師として全国的な活躍をされておられたのです。山口での能・狂言の興隆を願って帰郷されたと思います。

昨年10月2日、元就没後450年記念の能と鷺流狂言が野田神社能楽堂で山口市支援の下に公演された際も米本父子は大活躍と思います。



また太郎さんは大内時代の神社・仏閣など文化財の保存活動もやっ

ておられます。ユネスコ無形文化遺産の能の文献は多く見られますので素人話はこれくらいにいたしましょう。

デジタル時代こそ、山口七夕会の活動と世界に誇れる山口の能の伝統文化を守り、人の心を大切に作る郷土山口の発展を期待しています。

山口市内の面白名所発掘 6 「山口中央高校校庭に不時着した坂本壽一」

古谷 眞之助 (会員No.607)

山口県人として米国で初めて飛行ライセンスを取得したのは、柳井市出身の坂本壽一である。今から100年以上前の1913年1月8日のことだった。彼は同市室積にあった県立工業学校を卒業して単身渡米し、ロサンゼルスでのナショナル工業カレッジの自動車科を卒業して念願のフォード自動車に入社する。しかし、彼は当時花形になりつつあった飛行機に魅せられ、ロサンゼルス郊外にあったシラー飛行学校に入学し直してここを卒業し、米国で192番目のパイロットとなったのである。下に掲げるのは彼の飛行免許である。ここに掲載した2枚のモノクロ写真は2004年に柳井市在住の坂本壽一のご次男・健二氏所有の写真をコピーさせていただいたものである。



【女性に囲まれて得意満面の坂本壽一(操縦席)】は大した成果を上げることはできなかったようだ。しかし彼は多大な報奨金を得るとともに機体を売却し、それをもって「我が国初の飛行機輸出」と豪語したという。また彼は名パイロットであるとともに何度も「墜落した」と自慢するほど万事派手好きなスタンドプレーヤーでもあった。しかも、彼はいつも無傷だった。といっても、実際は墜落ではなく、単なる不時着だったのだが……。その後も彼は「航空思想普及」という名目でスポンサーを募っては展示飛行を続けた。

そんな彼が山口市で不時着事件を起こしたのは1922年のことだった。彼は山口、防府、宇部で航空思想普及のための飛行会を開催する計画を立て、山口宮野の桜島演習場に機体を運び込んだ。7月23日のことである。そして8月3日に事故は発生した。翌日付の防長新聞には以下のような記事がある。

『坂本は防府に向けて午後4時50分離陸したが、エンジントラブルにより大内村の出会い【筆者注・榎野川と仁保川との合流点、現在の山口中央高校付近】の水田に不時着した。機体は大破し、これによって坂本の県下航空思想の普及活動も終りとなった。』機体は大きく損傷したが、今回も坂本は無傷だった。そしてやはり無傷だった坂本機のプロペラを坂本は県立博物館に寄贈したのである。下写真が同館に今も残るプロペラである。

以上、これまで6回にわたって山口市と鉄道、飛行機との関わりについてマイナーな話題を採り上げて書いて来た。次回からは、6回を目処として、江戸時代の山口市の歴史について出来るだけ面白そうな話題をピックアップして書くつもりでいる。引き続きご愛読いただければ幸いです。



坂本は自作の坂本式飛行機とともに帰国後、民間飛行士として華々しい活動を開始する。何せ当時は飛行機を飛ばすだけでショーが興行的に成立し、高々10分程度の飛行に対して10数万人が押し寄せた。まだまだ飛行機は「冒険」という言葉が相応しい時代だった。1914年6月に大阪鳴尾競馬場で開催された帝国飛行協会主催の第一回飛行競技会において坂本は、滞空時間の部で1位、飛行高度の部で2位となり、一躍注目を浴びるようになった。その後は有料の飛行ショーを全国各地で行い、時には女性を搭乗させたりして、スターパイロットの名をほしいままにした。やがて飛行ショーが限界に近付いたことを察知した彼が始めたのが、「商業飛行」だった。といっても航空輸送ではなく、広い翼下に商標を大書して飛び回る宣伝飛行である。そのスポンサーが、同じ山口県の滝部出身で大手化粧品・歯磨きメーカー中山太陽堂社長の中山太一だったのも興味深い。また彼は、当時日本に亡命中の孫文から依頼されて「革命飛行隊」の創設に一役買っている。1916年、自作の坂本式飛行機を中国に持ち込んで飛行隊を組成し、学生の訓練を実施している。ただし飛行隊

2021 年ふるさと山口本部・秋の講演会 報告

ふるさと山口本部・日本酒部会長 嘉瀬 修 (会員No.608)

◆山口市長挨拶

(これまでの市政を引き継ぎ、持続可能なまちづくりに職員の皆さんと共に取り組みたい)と訓示されました。



伊藤市長

伊藤和貴・山口市長(約 19 万 5000 の市民の皆さんの安心と安全を守る、それが最大のミッション(職員とワンチームでしっかり市民サービスに努めたい)。

伊藤市長は、1 次産業振興のため農林水産部を新設する方針を改めて示し、3 月議会に提案するそうです。任期は 2025 年 11 月 12 日までの 4 年間で、この間に市役所本庁舎の建て替えや、温泉資源を活用する施設「(仮称)湯田温泉パーク」建設などが予定されています。

◆申神本部長の開催挨拶



申神本部長

コロナ禍第 5 波が収まり、ようやく生活も元通りになりつつあるタイミングで、山口七夕会ふるさと本部秋の恒例行事であります講演会を開催出来ることとなり、久しぶりの皆様の笑顔とお会いすることができましたことを、大変感慨深く思います。



役員一同

新制七夕会のポイント三本の矢

- ① 夢と希望のある山口市の為に
- ② 地方は地方にあらず、首都圏、世界とつながる関係性を
- ③ 世代、職種、性別を超えた幅広い交流

初の zoom 開催の試みも役員の方の柴田さんの準備から機材搬入搬出、開会中の行程管理のおかげで無事遂行できました。ありがとうございました。

◆山口七夕ふるさと大使のちひろさん



ちひろさん

ふるさと山口市の歌(ふるさとの風)を熱唱

全員でマスクの下で歌いながらスクリーンからは、山口の風景が歌詞とリンクしてやっぱりぶちええ歌じゃ(^_^)伊藤市長と会場の皆様と気持ちをぐっと集めました。

◆セントコア山口 (安田支配人様とスタッフの皆様、増本総括マネージャ様)

セントコアの皆様いつも七夕会行事に対して大変ご理解、ご協力頂きありがとうございます。スタッフの皆様の細やかなお心遣いのおかげで無事に会を遂行出来ました。ありがとうございました。



セントコア山口



安田支配人



総括マネージャ

◆講演会

講師 梅尾 泰巖 様:ノーチラス・デザインワークス代表理事(山口七夕会ふるさと本部法人会員様)

「もしもサビエルが白狐伝説を語ったら(白狐伝説・外伝)」

古の昔より、身分の差別なく湯の恵みは分かち合われました。

あなたは、知っていますか？真の白狐伝説を。そこに秘められた大内氏の慈愛に満ちた心を。

「本日のお話の項目」

1. 狐伝説とは、そして外伝とは
もしもサビエルが白狐伝説を語ったら、神の使いである白狐の事を天使と言っただろう。
2. 白狐伝説・外伝と湯田温泉の街づくり
3. そもそも、白狐の稲荷神社とは？
4. 創設した秦 河勝は、聖徳太子の側近で渡来人
5. 稲荷とキリスト
6. 平安京、祇園祭と古代イスラエルの関係
7. 旧約聖書、創世記
8. アブラハム、ノア、モーゼ、ダビデ、ソロモン、そしてキリストの家系
9. 日本とのつながり
10. 南北朝と大内
11. 天下人、大内義興と山口大神宮
12. 大内義隆とサビエルのミステリー
13. そして現代
14. すべては、偶然か？ 未来をどう創る？



アダムとイブ聖書から始まり、ノアの箱舟がアララト山に留まったその日、まさに、7月17日の京都祇園祭りと山鉾の関係性、さらにサビエルがなぜ京都ではなく、西の京大内文化の町山口市で布教したのか？日本のクリスマスは、山口から！に帰着する時空を超えた講演内容。梅尾さんワールドで炸裂した講演でしたね。皆さんユダ王国は、まだまだ始まったばかりですよ。

梅尾さん

「その他の類似項目」

- ・大内氏が示した平等と博愛の精神
- ・稲荷神社は、ユダヤがルーツ
- ・白狐は、天使だった。
- ・ユダ王国の王家の血脈、幕末を経て現代へ
- ・防長湯田村温泉記
- ・ダビデ・ソロモン王家の血脈と大内氏
- ・稲荷神社は、秘かにキリストが祀られていた。
- ・国が滅亡し、古代イスラエルは、日本を目指した。
- ・祇園祭は、ソロモン王のシオン祭が起源

このような背景から我々は、下記の活動を立ち上げた。

「GUARDIAN Angel Knights YUDA KINGDOM」

(旅人にユダのグルメ文化を紹介する。)

- ・ユダ王国に訪れる旅人にユダのグルメ文化を紹介する。
- ・自らグルメを探索し、味を確かめサービスを確かめる。
- ・ガーデアン クオリティーを満たすグルメスポットを厳選して
- ・旅人に紹介し、至福の宴に誘う。
- ・天使が白狐の姿で教えてくれたユダ温泉とともにユダグルメが
- ・心を満たし明日の活力を創り出す。

我々は、ユダ王国 守護天使 騎士団である。

関西で感じる『ふるさとの風』

本部・副幹事長 村中 正司（会員 No.706）

懐メロの佐々木新一「あの娘たずねて」の歌詞にある様に、水の都の大阪に再び今年4月よりお世話になっております。

幕末にはそんな水の都、天下の台所大阪を中継して多くの長州の志士たちも京へと向かったことでしょう。

時は令和のコロナ禍の時代、関西大阪でふるさとの風を感じられる場所が果たしてあるのでしょうか？

食道楽と呼ばれる大阪には関東同様に山口県ゆかりのお店が何軒かありますが、なかなか山口市出身の店主がやられているお店が無く、みなみを中心に美味しい魚をお値打ちに食べさせてくれる「魚屋ひでぞう」というお店を阿知須出身の大將が何軒か経営されておられるくらいでしょうか。

食同様に故郷を感じさせてくれる場所が同県人の集う会です。大きく分けて関西には関西山口県同郷会と京都山口県人会があり、京都には47都道府県の県人会があるそうです。これまでに関西山口県同郷会総会や地酒維新の会やバスハイクにも参加させて頂きましたが、こちらでもなかなか山口市出身の方とはお会い出来ませんでした。

それでは関西大阪には山口市ゆかりの地は無いのでしょうか？これから大阪にある山口市ゆかりの地でふるさとの風を感じられる場所を、二カ所紹介したいと思います。

1977年にNHKで放送された大河ドラマ「花神」で描かれた鑄銭司出身の大村益次郎ゆかりの地で一カ所目が「適塾」です。花神は周防国の村医者の子として育ち、まだ村田良庵と名乗っていた22歳の時に蘭学修行の為に大阪の北船場（現在の中央区北浜）にある適塾の門を叩くところから始まります。



その適塾の校祖は過書町の先生と呼ばれた蘭方医の緒方洪庵です。まだ適塾生が100名程度の頃に村田良庵は入塾して僅か一年で塾頭まで昇られました。修行年限を終え、帰郷して町医者として平穏な日々を過ごそうとしていたところに黒船が来航し、時代が彼を必要とします。そんな医者修行の適塾は、今では大阪大学が管理し一般公開されております。

二カ所目は現在の大阪医療センターの側に建つ「兵部

大輔大村益次郎御殉難報国之碑」です。大学生の頃に大阪城から歩いて谷町方面へ行き、偶然にこの碑に遭遇した時は、夕陽に照らされたふるさとの偉人の碑を見て一瞬時が止まった記憶があります。この度、再びその時から38年振りに来てみて何故か懐かしさを感じました。



益次郎は医学・蘭学から兵書砲術まで通じ早くから西洋の政治制度にも注目し、陸軍はフランスの、海軍はイギリスの制度を大胆に取り入れ、兵制の確立と人材の育成に日本の盛運をかけた。また、益次郎は軍事上における大阪の重要性に注目し、1869年（明治2年）兵部大輔に任ぜられると、すぐに鎮台建設地・兵学校敷地などを検分して、天保山で海軍拠点地の位置を選定するなどの政策を強力に推進しました。1869年（明治2年）9月4日京都で国民皆兵反対派の刺客に襲われ負傷、大阪病院（現在の大阪医療センター）に運ばれ右脚を切断しましたが、手術は成功せず、46歳で亡くなられた。まさに花神の冒頭ナレーションの「一人の男がいる。歴史が彼を必要とした時、忽然として現われ、その使命が終ると、大急ぎで去った。もし維新というものが正義であるとすれば、彼の役目は津々浦々の枯れ木にその花を咲かせてまわる事であった。中国では花咲翁の事を花神という。彼は、花神の仕事を負ったのかも知れない。彼一村田蔵六、後の大村益次郎である。」以上の二カ所が益次郎が駆け抜けた大阪のふるさとの風を感じられる場所の紹介でした。自身も関西大阪で山口七夕会関西支部の一粒種として種まきしたいものであります。



ふるふるさとの味めぐり「おかき」

本部・幹事 久家 菊美（会員 No.601）

山口市のソウルフード？味めぐり？

投稿のお話を頂いて安易に了承したものの、正直なかなか思い出せません。

私が生まれ育ったのは小郡のお隣の陶です。中学から高校までの6年間、小郡駅（現 新山口駅）からの汽車通でしたので部活をして帰宅する頃にはお腹がペコペコです。さすがに中学時代は寄り道もできずまっすぐに帰っていたと記憶していますが、高校生になってからはあちこち寄り道していました。

部活をしていた一年生の頃は中央高校の門のすぐ前の駄菓子屋さんに寄り「チェリオ」を飲んだり、小郡駅について改札を出てすぐの所で立ち食いうどんを食べたり、バス停横の食堂で焼きそばを食べたり・・・足を痛めて部活を辞めた二年生からはみほり峠のぶっかけうどん、大島食堂のラーメンとかき氷、不二家はエビピラフ？コティでおませにお茶、休日は図書館に行くと言って出かけて一の坂川沿いのラセーナ？でランチをしたり・・・今考えるとどこからお小遣いが出ていたのか不思議ですが・・・でも何処もこうして書きながら思い出すととても楽しかった思い出です。でも具体的なメニューや味はなかなか思い出せません。



ということで、思い出の味は私の実家で作っていた「おかき」についてかいてみようと思います。実は先日の七夕会年次総会で頂いた「おかき」がヒントです。

私の実家では年末と2月の初め、年に2回お餅つきをしていました。重い石うすと杵を準備して、庭で火をおこし、鉄の釜でもち米を蒸します。年末のお餅つきは勿論お正月用のお飾りとお雑煮用の丸餅とあんこのお餅。2月のお餅はあんこ餅とおかき用です。まずは蒸したてのご飯にお塩のみをかけて食べます。口の中で噛んでいるとお餅の様になってくるのが楽しくて蒸しあがる度に少しずつお茶碗に入れてもらっていました。そして、お餅が出来上がると片栗粉を薄くひいた木箱に入れて四角く形を整えて置きます。

食紅で色をつけたピンク、黄色、緑、ごまの入ったお餅がカラフルに長方形の木箱に二種類ずつ。少し乾いた頃に薄く切って広げて乾かします。まだ柔らかいうちはすこし焼いて熱いお茶に浸してとろーりおしるこのお餅みたいです。乾いて来たら祖母が火鉢で焼いてくれたり、母が油で揚げてくれたり・・・どちらも香ばしくてほんとうに美味しかった私の実家の味です。父が亡くなるまで続いていたお餅つきと「おかき」は我が家の二人の娘達にとっても楽しくて美味しい思い出、二度と味わう事の出来ない思い出の味です。



次は、会員番号 726 の関周様に襷を繋ぎます。宜しくお願いします。

< 新入会員から一言 >

今回は令和3年度に新規入会された個人会員の方々の中から、お二人よりメッセージをいただきました。

【西竹 栄さん 会員 No.792】



この度山口七夕会に入会しました西竹です。海外の美術館巡りを趣味としています。

私は山口市佐山に生まれ、青春時代を山口市で過ごしました。山陽本線本由良駅発 6:52 の電車で小郡駅まで行き、さらに山口線に乗り換え山口駅まで行き、徒歩で山口高校まで通った3年間は、今も懐かしく思い出されます。当時、高校を HIGH SCHOOL ではなく灰スクールと呼んでいましたが、サビエル記念聖堂から聴こえてくる鐘の音と亀山公園から県立図書館に向かう道、その近くを流れる榎野川とそこに咲く桜は自分の青春時代の重要な要素でした。この文章を書いているうちに山口が懐かしくなり、EP レコード『我が青春の榎野川』を引っ張り出し聴いてしまいました。

【影山 絵里子さん 会員 No.793】



みなさま、初めまして。母の地元下関市で生まれ、山口市で育ちました。

大学から東京に出てきて、山口の認知度が低いことに気付き、もっと山口の魅力を知ってもらいたいと思うようになりました。旅行関連の仕事をしていますので、その観点から山口の良さを知ってもらい訪問してくれる方が増える活動ができたらと思っています。山口市と言えば、瑠璃光寺と山口外郎、大内人形は個人的にもっとアピールしていきたいです。

現在音声の SNS である Clubhouse で山口の方と繋がることができ、県外の方にも知ってもらうための活動も始めています。どうぞよろしくお願い致します。

< 令和3年11月以降の新入会員(初入会)の皆さん(個人会員番号・氏名) >

個人:No.793 影山絵里子さん、No.794 和田伸一さん

法人名:株式会社小郡衛生公社(代表者:吉富久悦さん)

※株式会社エフエム山口東京支社様からは令和4年度からの入会申込みをいただいております。

令和3年12月末現在の会員数:個人会員 359 人、法人会員 20 法人

レノファ山口観戦記と二つのふるさと

副会長 奥原 保 (会員No.330)

2021年11月7日NACK5スタジアム大宮で開催されたレノファ山口 VS 大宮アルディージャの試合を観戦した。レノファは今年首都圏最後の試合、J3への降格圏から抜け出しつつある両チーム、それに前レノファ監督の霜田アルディージャ監督と名塚レノファ現監督の師弟対決というふれこみで見逃すわけにはいかない。というわけで、ネット予約でビジター席チケットを入手し、大宮に向かった。

野木駅から大宮駅まで、都心までの半分の時間の40分、近く感じる。ただ大宮駅からスタジアムまで徒歩25分、足腰を鍛えるには十分な距離だ。飲食店街のすずらん通り、オレンジ通り、氷川参道と飽きない景色をみながらやっとスタジアムの入り口に到着したが、ビジター席の3番ゲートは反対側。何とかたどりつき、上の方の見やすい席にすわり、ビールで喉を潤す。周りを見渡せばオレンジ色のレノファファンがぎっしり。首都圏にこれだけのファンがいるとは・・・しばし感慨にふける。

いよいよキックオフの笛が鳴る。前半はビジター席側がGKの守る山口のゴール。前半果敢に攻め込んできて間近にみる相手側のゴール。サポーターたちは一瞬固唾をのんだが気を取り直して応援を続ける。そうこうしているうちに、遠くでよく見えなかったが、若手の田中涉選手がゴールを決め、サポーター席は大盛り上がり。

その後一進一退が続き、サイドが変わった後半戦、遠くからみる大宮側ゴールで苦戦模様。大宮側のコーナーキックが続き、GK・DFが懸命に守っているようだ、手前の方にはなかなかボールが来ない。終了10分前頃ペナルティエリアのすぐ前で山口のFKチャンス。これを高井選手が見事にゴール。手前でのビッグプレーにサポーター席は大拍手と万歳のウェーブ。この後10分間守り切り勝ち点3を上げ、15位から14位に浮上した。



終了後大宮の選手たちが山口のサポーター席前で一礼。霜田監督が深々と頭を下げられたのは、山口監督時代の思い出と同時に人柄が滲み出て、山口の勝利とともに感激の瞬間であった。帰りは七夕

会会員の大田さん、FM山口の御前さんと3人で氷川神社に向かって一礼、すずらん通りの餃子店で祝杯を挙げ、小一時間ふるさとの話題に盛り上がる。帰りには、オープンしたばかりの福の花直営店「熟成カラットルミネ大宮店」で家内の夕飯のお土産を買い求めた。その美味は大好評。楽しい休日であった。



栃木での生活は時間的にふるさと山口の生活を超えて、第2のふるさととなったが、2020年の県別魅力度ランキングで最下位の47位。日光は知っていても栃木県となるとあまり知られていないようだ。県側はあわてて「底(ソコ)からアップ」というスローガンのもと2021年は最下位から脱出し41位に上がった。ところがよくみると山口県がその下の42位(20年度は32位)となっているではないか。私としては山口の魅力は上位にあると思っていたが、これも発信力不足所因か？



私事、ふるさと防府の菩提寺にある、代々末っ子が引き継いでいる墓を兄とその息子に譲り、私の子供・孫たちが気軽に墓参できるよう、地元野木の名刹満福寺という曹洞宗寺院の檀家となり墓地を手当てした。住職は東北の総本山正法寺の山主を兼ねておられる。9年前から坐禅のご指導をいただいている鹿沼の常真寺住職・駒澤大学皆川廣義名誉教授から得度を受け、先生の一字をいただいて廣保(こうほう)という法名を賜っている。栃木で二人の高僧との出会いがあり、日々充実した生活を送っている。

山口で生まれ、栃木で骨を埋めることになるが、これからも修行を重ねながら、ふるさと山口、第2のふるさと栃木、二つのふるさとの魅力を発信続けていければと思っている。

「おさるさん」と「おうまさん」

副会長 兼 会長代行 渡邊 史信 (会員No.364)

皆さん、新年おめでとうございます。今年こそコロナコロナで右往左往することなく、落ち着いた平穏な日常を過ごせる幸せに戻れればと願っています。さて、「寅さん」の年になって、早1ヶ月、年始のお忙しい行事を多々こなしながら、そろそろ年初の決意を忘れかけている方も多いのではと拝察致します。

という事で、干支を思い出してください。想像上も含めて12種類の動物に比定されていますね。干支を漢字でスラスラ書けますか？ 私は新入社員や管理職研修の講師をする時、受講者に干支を漢字で書けとの問題を出し、全問正解する人はごくまれでした。(嫌味な上司ですね！) 毎年年末年始に嫌というほど目にして、自身でも書いているはずですが、何という事でしょう！ やはり、干支の漢字と比定される動物たちが直接結びつかないところに、その遠因があるのでしょうか。(さあ、ここで紙に是非書いてみてください)

尚干支と動物の関係は、是非ご自身で調べてください。

さて、以前ある友人から以下の話を聞いて「なるほどねっ！」と思ったことがあります。

……外国の方が「日本語は本当に難しいですネ。特に敬称は複雑でよく分かりません。例えば動物では何故『さる』と『うま』にだけ頭に『お』がついて、さらに終わりに『さん』が付くのデスカ？ 丁寧すぎませんか？ 『さる』と『うま』は何か特別ですか？」……？

たしかに！！「お・・・さん」となるかどうかを先ず十二支でチェック。「ねずみ、牛、トラ、ウサギ、龍、へび、馬、羊、猿、鶏・鳥、犬、いのしし」。確かに「さるとうま」だけです。他は「カラス、鳩、すずめ、梟、猫、狸、いたち、鹿、熊、象、ライオン、キリン、かば、わに、ペンギン、鯨、鮪、鯉、はまぐり、エビ、カタツムリ、蟬、蝶、・・・」言いませんね。ちなみに馬と鹿ですが「おばかさん」は違いますね。

前回の七夕会通信でご紹介した我が懐かしの角川国語辞典では、
「敬語」は【一般に尊敬語・謙譲語・丁寧語の三種に分ける】、
「さん」は【人名・職名などに添える尊敬語。「様」より敬意が薄い】、
「様」は【代名詞および神名・仏名・人名・官名・または神格・人格とみられるものなどにそえる尊敬語、「あなた様」「マリア様」「お星さま】、+「お日様・お月様(さん)」

「殿(ドノ)」は【他人の氏名・職名などの下につけて尊敬を表すことば】だと説明されています。使い方の区別及び最初に「お」が付くかどうかがよく分かりません。

「お父様、お母様、お姉様、お兄様・・・」とは言いますね。「お父上、お母上」は言いますが「お姉上、お兄上」とは言わず「姉上、兄上」ですね。「親御さん、父御、母御」も不思議です。「甥御、姪御」や「伯(叔)父御、伯(叔)母御」とは言いますが、「(祖父)じじご」「(祖母)ばばご」「(孫)まごご」とは言いません。まごまごします。「お子様、お嬢様、ご子息様、お姑様、お舅様、お嫁さん、お婿さん」は言いますが「お息子様」とは言いません。「お内裏様、お雛様」は歌にありますね。「お蚕様」も二階の屋根裏で蚕を飼っていた母方の田舎(阿知須)の祖母が言っていました。



特殊な例では徳川五代将軍綱吉の時代の「お犬様」には、庶民の揶揄と批判の印象がありますね。ちなみに時代劇では「お殿様、ご老中様、お奉行様、お代官様、ご家老様、お侍さん、お庄屋様、お大尽様、等」も思い浮かびます。又疑問。「お」と「ご」の違いは？ 職業では「おまわりさん、お相撲さん、お百姓さん、お坊さん、お魚屋さん、お豆腐屋さん」とか「お拾いさん、おもらいさん」もありますね！「八百屋さん」とはいいますが「お八百屋さん」とは言いません。オヤオヤ。

「御狐様」は正一位稻荷神の神使(眷属)ですから何となく分かるような気がしますが、普通の生活や子供たちは使いませんよね。しかも、十二支の中でも神使として例えば「牛は大宰府天満宮」「兎は住吉大社」「蛇は大神神社」「鶏は伊勢神宮」「猪は護王神社」になっています。ということで何故「さるとうま」なのかますます良くわかりませんね。二重敬称を嫌う日本語の中で何故でしょうか？ 例えば「各位殿」とか「各位様」と書く人をたまに見ますね。「間違っていますよ」と誰か言ってあげればいいのに…。

「お」は「御」ではなく可愛いという意味の「小」ですかね。「お菊さん」とか「おくまさん」とか若い(可愛い)女性に時代劇では使っています。しかしそうならば何故「さるとうま」だけが可愛いのか納得できません。何か法則・理由・謂れがありそうですが、会員のどなたか、本誌にご投稿いただきご教示ください。

ちなみに私は「おウマ(午)さん年です」。では、色んな事が気になる渡邊でした。

山口七夕会 親睦ゴルフ“第4回八木重二郎杯”レポート

副会長・本部長 藤井 謙志 (会員No.611)

日本を代表するビクトーナメント“三井住友 VISA 太平洋マスターズ”が開催されていた令和 3 年 11 月 12 日(金)、我が山口七夕会本部ゴルフ部会も親睦ゴルフ“第4回八木重二郎杯”を無観客にて開催いたしました。雲一つない真っ青な秋



晴れの中、暑くも寒くも風もない最高のコンディションに恵まれ、実に気持ちよく親睦を深めることのできる一日となりました。新型コロナウイルス感染拡大の影響により昨年は開催を自粛しておりましたが、今回は最高齢 91 歳の岡本浩次さんのご参加も頂き、久しぶりの開催となりました。



場所はいつもの埼玉県にある“PGM 武蔵ゴルフクラブ”、近くに秩父の山や遠くに赤城の山

を望む 18 ホール 6,008 ヤード(Regular Tee)のコースです。元富士銀行の接待コースだったこともあり、クラブハウスも素晴らしく皆さんお気に入りのゴルフクラブです。機会があれば、ご参加されたことのない方も是非一度ご一緒に楽しみましょう。

コロナ禍で1年半ぶりにラウンドするとゴルフカートが新型に入れ替わっていました。ICT 化されたカートはラウンド中の全メンバーのスコアがリアルタイムで情報共有、表示され、ラウンドしながら前後の組の方々と自分のスコアを見て一喜一憂しながら回ることができるタイプになっており、新たな楽しみ

が一つ加わりました。

メンバーは久しぶりにラウンドされる方も多く、無理をせず安全第一、健康第一なプレイをされる方が多かったように思いますが、手入れの行き届いた美しい芝の上を辺りの風景を見ながら和気あいあいに楽しく歩くだけでも、久しぶりに健康的な環境の中に身を置いている実感がございました。



ホールアウト後はコロナ禍の事もありますのでコースから直接クラブハウス内のレストランへ直行し、簡素化した表彰式を執り行いました。今回の栄えある優勝者は武内浩さんです。毎回ベスグロを出してこられた実力者ですので、優勝するのは時間の問題と言われておりましたが、今回ついに優勝されました。最高齢の岡本浩次さんも見事に 18 ホールをラウンドされ、お元気にホールアウトなさいました。



表彰式終了後は、各自のご判断で入浴、帰宅頂きましたが、表彰式を簡素化したため帰りの高速は夕方の渋滞に引っかかることなく帰宅できました。次回開催は令和 4 年 5 月 6 日(金)を予定しております。4-5-6 と覚えて頂き、皆様のご参加をお待ちしております。

※今回のご参加者:八木重二郎さん、岡本浩次さん、三枝寛さん、梅田圭良さん、大枝幹夫さん、西村弘文さん、武内浩さん、密田孝代さん、利重尚義さん、藤井謙志

山口七夕会・本部役員異動のご案内

2021年12月18日付 役員新体制

(※が変更部分)

役職名	氏名	担当
会長	秋草史幸	代表、総会・評議員会議長
副会長・評議員	渡邊史信	会長補佐 兼 会長代行
副会長・評議員	奥原 保	会長補佐
※副会長・評議員	藤井謙志	会長補佐 兼 本部長
副会長・評議員	申神正子	ふるさと山口本部本部長
評議員	大田 宗	会計
評議員	吉松 勇	ふるさと山口本部事務局(前事務局長)
評議員	山下大輔	ふるさと山口本部事務局長

監査役	大枝幹夫
監査役	※

顧問	石田順康
顧問	山本和生(在山市)
顧問	繁永俊之(山口県東京事務所長)
顧問	八木重二郎

<本部役員>

本部役職	氏名	役割
※本部長	藤井謙志(再掲)	会務統括
※本部長代行	西村弘文	本部長代行(機関誌編集長)
副本部長	岡本達也	本部長補佐
※幹事長	関 周	交流会・広報(情報発信)
副幹事長	村中正司	関西常駐
幹事	大田 宗(再掲)	会計・経理・予決算・出納
幹事	引頭和江	幹事長補佐
幹事	田中美旋律	イベント企画
幹事	田村廣修	本部長補佐・七夕会ホームページ管理
幹事	久家菊美	本部長補佐
幹事	小野美穂子	本部長補佐
幹事	藤村幸絵	広報
幹事	岡崎龍也	イベント企画
※顧問	武内衛子	本部顧問
※顧問	山根和也	本部顧問

謹んでお知らせいたします。監査役の竹重高志様におかれましては、令和3年12月に逝去なさいました。心よりご冥福をお祈りいたします。

山口七夕会・新旧本部長ご挨拶

【藤井謙志 新本部長】



このたび山口七夕会本部長を拝命しました藤井謙志と申します。どうぞよろしくお願ひ致します。前任の楢山さん、前々任の山縣さんの業績を考えますと大役に身の引き締まる思いですが、皆さまのご指導ご鞭撻を仰ぎながらお役を務めてまいりたいと思います。

思えば私が山口七夕会へ入会したのは、子会社である富士ゼロックス山口の社長を拝命し山口市に単身赴任している時期、今から7～8年前だったと記憶しております。末富社長の山口日産本社でのスタンウェイ・ピアノの演奏会へお誘ひ頂き、イングランド コッツウォルズ直輸入の石を使った新社屋の見学後、ショールームでの演奏会、そしてその会場で山縣さんと初めてお会いし、AKB48の“恋するフォーチュンクッキー”と一緒に踊った際に山口七夕会の何たるかもよくわからないまま入会しました。数年後、自らがその山縣さんのお役を引き継ぐことになるとは夢にも思っておりませんでした。

ご存じの通り、山口七夕会は室町時代の大内文化からの由緒あるちょうちん祭りを東京世田谷のふるさと祭りで執り行ったことに端を発しております。歴史ある山口市を愛し、山口市の発展を願う方であればどなたでも会員になって頂く事ができます。門戸を広げ、より多くの皆さま方と一緒に、楽しみながら無理のない範囲で親睦活動等に取り組んでいければと考えております。山口県庁や山口市役所ともゆるやかに連携し、会員の皆さまと有益な情報を共有できるよう心がけてまいります。“ふるさと山口”、“第二のふるさと心のふるさととしての山口”にご関心のある皆さま方が気軽に集まれる“場”をできるだけリアルにご提供することを目指して会の運営にあたって参りたいと考えております。コロナ禍ではありますが、工夫を凝らして対応したいと存じます。

私自身は周南市(旧徳山市)出身ですが、山口市に単身赴任しておりました間、山口市の皆さま方は私を快く受け入れて下さり、その懐の広さに感激しておりました。今は逆に皆さまを受け入れる事務局を担当する立場となりましたが、その時の感激を忘れることなく少しでも多くの皆さま方と楽しい時間を過ごすことができればとの思いでおります。ふるさと山口本部長の申神さんとも連携を取りながら会と会員の皆さまの発展に貢献できればと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

【楢山俊哉 前本部長】



令和元年に前任の山縣幹事長(=現行制度の本部長)より重責を引き継いで以来、本部長として二期目を迎えた直後に退任いたしますことをまずはご容赦ください。思えば新本部長として高輪和彊館での年次総会でデビューしたものの、翌年の年次総会はコロナ禍により書面開催となり、昨年の年次総会は延期の末の開催と、貴重な経験をさせていただきました。自らの勤務先業務と本部長との二足のわらじは、相当にプレッシャーのかかる状況でしたが、会員の皆さまのご支援ご協力のもと、何とか会の運営の舵取りを全うできましたことに心より感謝申し上げます。

今後は新役員のもと、役員が相互に補完しあう体制を強化して会の運営が行われます。改めて会員の皆さまのご支援ご協力を宜しくお願ひ申し上げます。

私事ですが、既に昨年末には生まれ育った山口市平川の実家に転居し、山口市民に、ふるさと山口本部の一員になっております。この1月には還暦を迎えました。これからは、七夕会の第一の目的である「郷土山口市の発展に寄与する」ことを目指し、これまでとは違った手段、方法によって貢献していけますよう精進努力して参ります。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願ひ申し上げます。

< **七夕会機関紙の原稿を募集します** >

1. **表紙の書、写真、挿絵**（書や山口ゆかりの写真、挿絵等を募集します。）
2. **大使の一言**（「山口七夕ふるさと大使」の皆さんの自己紹介記事やメッセージを掲載します。）
3. **私の一言**（次のテーマと要領で、皆さんからの投稿をお待ちしております。）

★募集するテーマ

- (1) 山口市関連情報(山口市のお国自慢情報、山口市ゆかりの物品・慣習にまつわる情報など)
- (2) 山口県外の山口「市」「県」でも可です)ゆかりの地や名跡、建物紹介
- (3) 東京での同窓会活動(山口市内の小中高・大学・短大・専門学校等の同窓会活動情報)
- (4) 活動紹介(文化財保護やスポーツ選手後援会などの非営利活動の紹介)

★字数

1,400 字から 1,600 字程度

(写真は 2 枚程度を基準としております。写真の枚数によっては字の大きさや行間を調整します。)

★投稿締切

「通信」6 月号掲載の場合は 5 月上旬、「会報」9 月号掲載の場合は 8 月上旬に提出先必着です。

★投稿提出先

編集長の西村本部長代行(メールアドレス: joe-levin01@outlook.jp へ電子データ(Word、テキスト形式など)をお願いします。

※七夕会「通信」は白黒印刷、七夕会「会報」はカラー印刷です。ご承知おきください。

< **法人会員募集** >

= 法人会員（年会費 1 万円）を募集しています！ =

～山口七夕会では、財政基盤の確立と組織の拡大を目指し、法人会員を募集しています！～

- 山口七夕会では、各事業年度内に原則 3 回、会員の皆さんに機関誌「山口七夕会会報(9 月)」、「山口七夕会通信(1 月&6 月)」を市報「やまぐち」などの情報とともにお届けしています。
- 法人会員の皆さんには、各事業年度内に 1 回、チラシやパンフレット等を機関誌に同封してダイレクトメールとしてご活用いただくことができます。(単純に計算しますと、切手 84 円*現在の個人会員数 359 名 = 30,156 円のコストが年会費 1 万円の法人会費で賄われることとなります。)
- 会員の皆さんのご関係者やご懇意の法人様の紹介を宜しくお願いします。

※お問い合わせ、申し込みは、以下の事務局までお願いします

山口市七夕会事務局(山口市企画経営課内) 担当:岡村 TEL:083-934-2746

<イベント予告[ふるさと山口本部]>

<ふるさと山口本部・第5回酣祭の開催>

日時: 令和4年3月5日(土)18時~(受付17時45分)

場所: 「セントコア山口」(湯田温泉 3-2-7)

時節柄、コロナウイルス感染防止に配慮した会といたしますので、ご協力を宜しくお願いいたします。

コロナウイルス感染状況等に伴う環境変化によっては、予定を変更することもあり得ますのでお含みおきください。

(変更のある場合は、HPの他、出席のご連絡を頂いた会員様にご連絡いたします。

◆ご出席のご連絡は、この七夕会通信に同封の「交流会出欠連絡票」にてお願いします。

<イベント予告[本部(東京)]>

<春の講演会 & 第34回交流会>

日時: 令和4年3月27日(日)11時~講演会、12時15分~交流会

場所: 「インテリジェントロビー・ルコ」 東京都新宿区揚場町 2-1 軽子坂MNビル 1F (JR/地下鉄 飯田橋)

講演講師: 文学紹介者 頭木 弘樹(かしらぎ ひろき)様

講演タイトル: 「変わりゆく今だから伝えたい珠玉の名言」

~「NHK ラジオ深夜便」、「絶望名言」シリーズで人気の頭木氏がふるさと山口に贈る希望のメッセージ~

☆交流会終了後、有志で1時間程度、お花見ウォーキングを実施します。是非ご参加ください。

☆☆会員を中心とした恒例の交流会ですが、会員でないご家族やご友人をお誘いいただくこともできます。

☆☆☆お申込みは、七夕会通信1月号に同封された出欠連絡票をご利用ください。

※コロナ禍の状況次第では中止とすることもあり得ます。お含みおきください。

【編集後記】

編集長の相山です。これまで七夕会機関誌の編集長を務めて参りましたが、本部長退任に伴い、今回が最後の編集となります。表紙の刷新や新企画の採用、カラー印刷コストの削減などの取組みは、新たな編集長となる西村弘文本部長代行に引き継ぎます。

機関誌に関する今後の課題として、紙での発行をWeb化するなど、時代を意識した新たな取組みも必要となります。皆さま方からの積極的なご寄稿はもちろん、機関誌のあり方についても忌憚のないご意見をお寄せいただくと幸甚に存じます。これまで機関誌をご愛読いただきありがとうございます。会員相互の絆を感じる場として、なお一層機関誌をご愛読くださいますよう宜しくお願い申し上げます。

【事務局からのご案内】

◎転居されるご予定のある方は…転居予定日、転居先を任意の様式でかまいませんので、下記までご連絡ください。(ご連絡がないと七夕会通信や市報等の資料が届かなくなってしまう)

◎退会を希望される方は…退会されるのは残念ですが、任意の様式でかまいませんので、下記までご連絡ください。(会員録の整理などの事務手続に必要となります)

★山口七夕会事務局(山口市企画経営課内)
〒753-8650 山口市亀山町2番1号
TEL 083-934-2746